

第9回 IDPT 議事録

議事録作成: 清水義博

平成30年2月20日

開催日: 平成30年2月18日(日)16時~18時30分

場 所: 高尾台町会会館1F

出席者: 16名(欠席11名)

<会議目的事項>

平成30年度事業の具体的内容を提案し決定する

内 容:

1. 「知る」チーム : IDPT メンバーの拡大 配布資料により説明(説明者: 清水義博)
2. 「つくる」チーム: 生きた事業運営の実践 配付資料により説明(説明者: 谷内完予)

意 見:

1. 資料にある「災害が発生して避難所へ入るまで平均3日間を要する」との記述はおかしいのではないかと? 例えば地震が発生し全戸避難指示が出た場合、速やかに近所の皆さんと避難所に避難することになる。3日間というのは、避難所に食料、水、医薬ほか救援物資が届きはじめ本格的な復旧が開始されるまでの3日目までをいってるのではないかと? この期間は、日ごろの訓練や準備したことで近所と助け合っしてしのぐ必要性が生じる時間帯となります。いわれるように、この3日間をどうすればしのぐことが出来るか、マニュアル化することは極めて重要なことだと思います。
2. 「つくる」チームの皆さんには、高尾台自主防災会自体を組織として機能させる、「組織運営をつくる」ことを主眼に置いて頂きたい。提案にあるマニュアルやマップ作成を高尾台町会防災会組織表にあるIDPT 以外の86名のメンバーを巻き込んで、町会長を頂点とする組織でマニュアルを作成する本来の防災会活動に持ってゆくことが重要。IDPT だけで活動するには無理があり、30年以上運営して来た町会組織が防災活動をしなければ継続性は担保出来ないと思います。IDPT は防災専門家集団を目指し町会長のスタッフ組織としての役割を全うすることが本来のあるべき姿です。
3. 「伝える」チーム: 生きた広報活動の展開 配付資料により説明(説明者: 橋場健次)

意 見:

1. 「伝える」チームには、広報活動として5月13日のバーベキュー大会での PR や水消火器によるデモンstrーション、ロープワーク、防災資機材の紹介等々防災活動を知って頂く企画をもって防災会の活動を知ってもらう活動を担って頂ければと思います。
2. また、平成30年度に2回開催予定の「向こう三軒両隣防災懇談会」にて防災会活動を知ってもらう企画を考え懇談会の運営をお願いしたい。
3. 「知る」チームにて運営する防災勉強会の PR、また、活動自体を記録し広報として流すことを考えて頂ければと思います。

決定内容:

1. 「知る」チーム:

- (1) IDPT 会議運営(7回)
- (2) 防災勉強会(6回)企画並びに運営

2. 「つくる」チーム:

- (1) 高尾台町会防災組織の運営(実行委員会・防災会総会・防災倉庫棚卸)

(2)「避難所までの3日間」「防災マップ」「避難所運営マニュアル」作成支援

3. 「伝える」チーム:

(1)町会行事での防災会 PR(バーベキュー大会ほか)

(2)「向こう三軒両隣防災懇談会」企画並びに運営(2回)

(3)防災活動の記録並びに広報

年間スケジュール:(注:実施にあたっては日程変更が生じる場合があります)

平成30年度(2018年)年間スケジュール				2018. 02. 20
	伏見台校下	高尾台町会	高尾台町会自主防災会	生きた自主防災高尾台(IDPT)
2月		2月10日新年会		第9回IDPT会議2月18日
3月		3月18日定例総会	3月10日実行委員会	「防災士部会」平成30年度勉強会カリキュラム会議 3月18日
4月		高樹会春の旅行	4月 8日定例総会	第10回IDPT会議=第1回勉強会 4月15日(日)
5月		5月13日バーベキュー	水消火器訓練(@バーベキュー会場)	第11回IDPT会議「第3回向こう三軒両隣」実施要領
6月		役員会		第3回向こう三軒両隣防災懇談会6月10日
7月		高尾・高尾台盆踊り		7月22日第12回IDPT=第2回勉強会
8月	サマーフェスタ	学校に泊まる		
9月	9月16日防災訓練	社会体育大会		9月30日第13回IDPT=第3回勉強会
10月		高樹会秋の旅行	防災倉庫棚卸	第4回向こう三軒両隣防災懇談会10月21日
11月				11月18日第14回IDPT会議(次年度事業計画)+第4回勉強会
12月		役員会		12月16日第15回IDPT=第5回勉強会・第3回防災士育成講座町会推薦者受講(予定)
H31 1月				
H31 2月				2月17日(日)第16回IDPT会議(次年度事業実行内容)+第6回勉強会
H31 3月		3月17日定例総会	3月 9日実行委員会	

4. 高尾台町会防災士誕生報告

- (1)清水義博:防災士誕生までのプロセス、テキスト、講習内容の説明があり防災力向上にとって防災士育成講座受講者を町会から毎年出すことが近道かつ有効であるとの指摘を受けました。
- (2)出口佳代:「家族防災会議」というテーマで資料に基づきお話を頂きました。高尾台の災害リスクの確認、大地震での自宅内の危険箇所、安全確認、家庭内での備蓄品、非常持ち出し品の準備、消化用品、災害時の対応確認、高齢者がおられる家庭ではその避難方法、家族の連絡方法の確認等、年に1度は家族で話し合う機会をもって、災害時の家族の守りを確認することが重要であると話されました。
- (3)竹内陽子:1月28日に受講されたスキルアップ研修会の中から重要と感じた内容をお聞きしました。「平日の防災訓練から見えてくるもの」平日が5日あることから災害が平日である割合は高い。平常時の活動は、楽しく長続きする「しかけ」を盛り込む工夫をする。また、「安全確認は誰のためのものか?」大人の視点、子どもや災害弱者の視点と対象を明確にして地域の安全を確認することが重要。更に、永山さんがいつも言われている「平時に出来ないことは、非常時には出来ない」平時での訓練や学習を通して防災力を高める努力の継続が必要。日ごろの活動を通して、顔が見える声掛けが有効。疑わしきときは行動する、空振りには許されるが見逃しは許されない。「正常化の偏見」に捕らわれない、人は自らにとって都合の悪い情報は無視し、災害は来ない安全だと考えてしまう。

5. 次回会議日程

平成30年3月10日実行委員会(対象者:町会長・各丁目副会長・橋場・永山・清水)

平成30年3月18日高尾台町会定例総会

平成30年3月18日(定例総会終了後1時間程度)防災士部会(5名)勉強会カリキュラム検討会議

平成30年4月 8日高尾台町会「自主防災会」総会(防災会組織113名+町会会員)

平成30年4月15日第10回 IDPT 会議並びに第1回防災勉強会(仮称:高尾台防災カフェ)

以上

第9回 IDPT 会議資料

開催日：平成30年2月18日（日） 16時～18時30分

場 所：高尾台町会会館1F

出席者：16名（欠席11名）

<会議目的事項>

平成30年度事業の具体的内容を提案し決定する

会議次第：

1. 「知る」チーム：IDPTメンバーの拡大（提案）
2. 「つくる」チーム：生きた事業運営の実践（提案）
3. 「伝える」チーム：生きた広報活動の展開（提案）
4. 高尾台町会防災士誕生報告

2017年度「防災士育成事業」において5名の防災士が誕生しました。本日出席の3名から報告をお願いします。

清水義博・出口佳代・竹内陽子

5. 次回会議日程

生きた自主防災高尾台 (IDPT)

「知るチーム」部会議事録

① 開催日：平成30年1月21日（日）16時00分～17時30分

② 出席者：

清水義博	川原利治	大場康子	勝裕健司	長谷川浩章	北川浩之	清水恵子
------	------	------	------	-------	------	------

以上7名

③ 議事録作成者：清水義博

④ 会議目的事項：

第8回 IDPT 会議（2017.12.03 開催）にて決定した平成30年度事業

1. IDPT メンバーの拡大（「知る」チーム）
2. 生きた事業運営の実践（「つくる」チーム）
3. 生きた広報活動の展開（「伝える」チーム）

の具体的な中身をそれぞれ上記記載チーム部会にて議論し2月18日開催予定の第9回 IDPT 会議に具体案を提出する。

⑤意見内容：

1. IDPT の拡大はメンバーが年を追って年齢を刻むことから毎年行うべき。
2. メンバー拡大をする上で、自分たち自身が自主防災に関して説明する「知識」や「ノウハウ」を持っておらず説明出来ない。
3. まずは、自らが勉強会を通して知識を深めることが重要であり、IDPT の防災力の質を上げ活動の輪が広がり拡大が実現してゆくのが望ましい
4. 顔見知りになるということも重要である。メンバー同士でも会議でお顔を知っていても名前が解らない。IDPT の名札をメンバー個人に渡してもらいその上で町会行事に参加する時は常時身につけ防災メンバーの〇〇〇であると知ってもらうことも IDPT の輪を広げる一歩ではないか。
5. 新しく防災士になられた皆さんからお話を聞いて学ぶ定期的な勉強会を設けて全員で学ぶ。勉強会に講師やゲストとし他町会の方や災害経験者の皆さん、保健所の皆さん、消防士の皆さんを招いたり、高尾台町会内の育友会、PTA、婦人部、公民館メンバーからお話を聞くとか一緒に学ぶ機会と定着させれば、そのことを通して「小グループ」との繋がりが出来て拡大へと進むのではないか。
6. IDPT の集まりを会議1時間、学ぶ時間1時間とすると負担感も少なく勉強会の継続・定着も可能となるのではないか。
7. 高尾台町会の行事、会議等の機会には自主防災会の PR も必要である。
8. 昨年初めて実施した全ての班長さんを対象とした高尾台町会自主防災会

の活動を知ってもらう勉強会を通して意見交換する「向う三軒両隣防災懇談会」は毎年実施すべきである（役員会にて承認済）。

9. 防災士になられた皆さんから、それぞれ学ばれた内容の中で最も心に残った内容、刺激を受けた内容をお一人お一人からお聞きしたい。次回第9回 IDPT 会議で話してもらい平成30年度勉強会のキックオフとしては。
10. 平成30年度に防災士の皆さんが講師となってすすめる勉強会を月1回の定期開催にしてはどうだろうか？

⑤ 決定内容：

1. 高尾台町会活動に IDPT の名札を身につけて参加することでの認知拡大
2. 月1回開催の防災士による防災勉強会で IDPT メンバー自体の防災知識・ノウハウの向上を図り、もってメンバーが拡大してゆく流れをつくる
3. IDPT 会議も会議1時間・勉強会1時間で運営する形に改変する

⑥ スケジュール(案)：

平成30年度(2018年)年間スケジュール				
	伏見台校下	高尾台町会	高尾台町会自主防災会	生きた自主防災高尾台(IDPT)
2月		2月10日新年会		第9回IDPT会議2月18日
3月		3月18日定例総会	3月10日実行委員会	「防災士部会」平成30年度勉強会カリキュラム会議 3月18日
4月		高樹会春の旅行	4月 8日定例総会	第10回IDPT会議=第1回勉強会 4月15日(日)
5月		5月20日パーベキュー	水消火器訓練(@パーベキュー会場)	第11回IDPT会議「第3回向こう三軒両隣」実施要領+第2回勉強会 5月27日
6月	防災訓練	役員会		第3回向こう三軒両隣防災懇談会6月10日+6月17日第12回IDPT=第3回勉強会
7月		高尾・高尾台盆踊り		7月22日第13回IDPT=第4回勉強会
8月	サマーフェスタ	学校に泊まろう		8月26日(日)第14回IDPT会議「第4回向こう三軒両隣」実施要領+第5回勉強会
9月	敬老会	社会体育大会		第4回向こう三軒両隣防災懇談会9月9日+9月30日第15回IDPT=第6回勉強会
10月		高樹会秋の旅行	防災倉庫棚卸	10月21日第16回IDPT=第7回勉強会
11月	防災訓練			11月18日第17回IDPT会議(次年度事業計画)+第8回勉強会
12月		役員会		12月16日第18回IDPT=第9回勉強会・第3回防災士育成講座町会推薦者受講(予定)
H31 1月				1月20日(日)第19回IDPT=第10回勉強会
H31 2月				2月17日(日)第20回IDPT会議(次年度事業実行内容)+第11回勉強会
H31 3月		3月17日定例総会	3月 9日実行委員会	3月17日(日)第21回IDPT会議=第12回勉強会

生きた自主防災高尾台（IDPT） 「つくるチーム」部会議事録

- ① 開催日：平成30年1月27日（日）15時00分～16時00分
- ② 出席者：3永順一 中西良太郎 谷内完予 以上3名
- ③ 議事録作成者：永山順一
- ④ 会議目的事項：第8回IDPT会議（2017.12.03開催）にて決定した平成30年度事業

- 1. IDPTメンバーの拡大 「知る」チーム
- 2. 生きた事業運営の実践 「つくる」チーム
- 3. 生きた広報活動の展開 「伝える」チーム

の具体的な中身をそれぞれ上記チーム部会にて議論し2月18日開催予定の第9回IDPT会議に具体案を提出する。

⑤意見内容：

- ・平成30年度は「つくる」チームとして具体的に何を作り形にするかを検討しなければならない。
- ・形にするものを作成する過程においてノウハウを蓄積し自身の成長につなげたい。
- ・平成29年度定例総会資料に高尾台自主防災会の組織図が掲載されているが、避難所運営を想定していることからこの組織図を実際に動かす「避難所運営マニュアル」を作成してはどうか。「避難所運営マニュアル」は金沢市が提示しているものがあるので、これを分析し高尾台自主防災会用を検討、作成する作業を通じ避難所運営を具体化したい。
- ・避難所運営も大切であるが、災害が発生し避難所へ入るまで平均3日間の時間を要すると言われていたことから、この3日間に関する平素よりの備えやこの期間を乗り切るノウハウを紹介する「避難所までの3日間」的な簡潔なマニュアルを作成し、多くの町会の皆さんに役立てるのものがいいのではないか。
- ・「避難所までの3日間」に記載された内容を具体的に防災カフェなどの場で紹介・実践する活動を展開し、平素よりの準備、グッズの備付を促進させたい。
- ・災害が発生した際は、向こう三軒両隣等の小さなコミュニティが有効に機能する考えられることから、各丁目単位や各班単位の地域を限定した「防災マップ」を作成したい。
- ・「防災マップ」作成は、対象地域から多くの情報を仕入れて記載したいので、より多くの対象者に参加して頂いて図上訓練を開催し資料としてのレベルアップを図るのみならず、コミュニケーション醸成にもつなげたい。
- ・「つくる」チームとしては、①「避難所までの3日間」、②「防災マップ」、③「避難所運営マニュアル」の作成を通じて実践的な事業運営を図る方針とする。

以 上

高尾台 IDPT 「伝える」チーム会議

平成30年 1月 27日 16:00～

(1) 平成29年度 総括

各メンバー、全体的な活動のなかで議論や活動に役割を果たしていた。
伝えるチームとしての具体的な活動は無い。

(2) 平成30年度 生きた広報活動

具体的な活動を

1) 危険を伝える

- * 地震（富樫断層）、土石流危険地域、豪雨による浸水地域等
- * 積雪時の除雪（消火栓）

2) 備えを伝える

- * 倒壊防止金具、煙感知器、備蓄品等の防災グッズの紹介
- * 町会備蓄品、避難所
- * 協力事業所等

3) 役割を伝える

- * 向う三軒両隣（近助）での助けあい

4) 伝える方法

- * 案内チラシの各戸配布（定期的な町会広報で啓蒙活動）を繰り返し行う

5) その他

* 情報の取得方法

- 各種の防災訓練を繰り返し行う。
- 各種の講習を受講する（救命講習等）
- 町内有線放送？

災害発生時できることは少ない、発生前の平常時に行うことを中心に考えよう。

「第一に減災準備」、「第二に発生時すぐ取るべき行動」です。まず自分、そして家族それから隣人になると思う、故に準備中心の活動を繰り返し行うことが重要だと思います。

出席者 河原、木谷、坂本、杉野、高山、竹内、天野、村濱、毛利、山原、橋場